

東海大学海洋科学博物館 企画展「駿河湾おさかな博覧会」

開催期間：平成28年4月29日（日）～10月10日（月）



【企画展の目標】

- 駿河湾の特異な地形とその魚類相の多様性を紹介する。海の豊かな資源に対する研究や利用方法への理解を深め、駿河湾で発見された新種や日本初記録種を提示することで身近な海に研究素材が存在する。またその研究成果を広く周知し、研究分野への興味を発起させる。
- 実際の生物に触れ、また生物を観察しながらの工作や水中の生物の様子を間近に観察する関連事業を通して、海の環境と海洋に生息する生物を守り、未来まで引き継いでいくことの重要性を学ぶ。
- 関連事業内容を経験することにより、海を安全に楽しく利用できる人材の育成とその技術の習得を目的とする。

展示会場の様子



東海大学海洋科学博物館 外観



企画展会場 入口



ダテハゼとテッポウエビが共生する巣穴の型やナマコとカクレウオの共生の映像、さらに駿河湾で現在までに記録されている、すべての魚種を標本とイラストで展示。そこから、駿河湾には多くの魚類が生息し、人々の生活はその海に大きな影響を与えていることを学ぶ。海の環境とそこに生きる生物を守り、引き継いでいく重要性を提示した。



現在までに行ってきた当館での魚類に関する研究成果を紹介。魚類相、分類、繁殖、生活史などに関する研究の詳細を、標本や実際に使用する研究資料、映像を用いて展示。また魚類の分類条件を分かりやすく、チャートクイズで表現。難しく思われがちな分類研究を楽しく理解していただくよう促した。



擦り絵や魚の輪郭枠を用い、色鉛筆や修正できるボールペンで魚を描くコーナーを設置。「想像の魚を描こう」ということで、様々な魚の輪郭を来館者が自由に組み合わせることで、自分だけのオリジナルの魚を描くことができる。広い海にはまだ誰も発見していない魚がいるのではないかと探究心を持つことを促した。

関連事業の様子

■ メガマウスザメを作ろう！

【開催日時】平成28年4月29日（金）～5月5日（木）
10:30～16:00

【開催場所】2階 うみの研究室内

【参加者数】470名

【目標・内容】

- 様々な海の資料が扱えるうみの研究室内で、日本で唯一揃う（2016年8月現在）雄雌のメガマウスザメ剥製などを観察しながら「メガマウスザメの帽子を作ろう!!」と「メガマウスザメのプラバン工作!!」を実施。稀少なメガマウスザメが駿河湾にも生息することを周知し、工作を実施した。特別展示開始時に実施し、賑わいを演出した。
- うみの研究室は大学の研究室を模しており、そこで楽しく学習・工作することも狙い。



透明なプラスチック板にメガマウスザメを写し、自由に色を付けて、レンジで加熱する。加熱することで収縮した板にストラップを付けてオリジナルのメガマウスザメストラップを製作した。未就学児童でも楽しめる内容で、メガマウスザメの形態的特徴などを理解すること、海の生物に関する工作を楽しむことを目的として実施した。



一枚の紙から切り出し、当館オリジナルのメガマウスザメ帽子を製作した。ハサミとセロテープで比較的簡単に製作が可能であるため、未就学児童でも楽しめる内容である。メガマウスザメの形態的特徴などを理解すること、海の生物に関する工作を楽しむことを目的として実施した。

■ふれてみて サメと海の生きものたち

【開催日時】平成28年7月30日(土)～8月31日(水)
10:00～16:00

【開催場所】博物館 裏庭テント

【参加者数】2016年8月22日現在 開催中

【目標・内容】

- 直径5m、水深25cmの円形水槽でサメとエイに、水槽では海岸生物に直に触れて、観察する。また、シュノーケルを装着して水槽内の魚を観察する。シュノーケリングの正しい技術を楽しく学びながら、海の生物の魅力を感じる。
- 体感することにより、さらに効果的に魚や海を感じさせ、印象に残るようにし、安全に海を楽しめる知識を得て、海への親しみ方を学ぶ。



駿河湾で見られるサメ・エイ類をはじめ、小型魚類と海岸動物をスタッフ指導の下、見て触れる展示。水槽内に入り、水中で五感を使いながら、より体験的に生物を観察する。水槽内には1m近いサメ、エイを収容した。体感することにより、さらに効果的に魚や海を感じさせ、印象に残るように実施した。生物の命を感じ、考えることを促した。



ガラス越しではなく、水中で生物を観察出来るように展示。水中での野外観察模擬体験を行うことで、水中生物に関する学術的興味を持たせる。実際の水中での動きを、直接的に観察することができる。そこから実際に生物が生きる環境の大切さを体感でき、環境について考える機会とした。また、シュノーケルの正しい使用法を学び、野外でのシュノーケリングによる事故を軽減することが期待できる。生物に関する学習効果だけでなく、今後、海を安全に楽しみ、親しむ方法を学ぶことができた。

■サマースクール小学5年生コース「もっと魚を知ろう」

【開催日時】平成28年8月1日（月）、2日（火）

いずれも9:00～16:00

【開催場所】博物館内、および三保海岸

【参加者数】72名

【目標・内容】

- 当館付近で地引網を行い、身近な駿河湾の海洋生物を実地調査。採集した生物は解説後、参加者が生物の図や解説などを制作し、展示水槽を立ち上げて一般公開した。採集し、飼育するという水族館業務の入口を体験し、海洋生物の生活について考える機会とした。
- 海洋生物に関する展示情報を人に伝えることを実際に行い、その経験を通して、生物の特徴や魅力を自ら発信する意欲を育成する。



実際の海で地引網を引く体験を通して、身近な地元の海にどのような生物が生息しているかを知る。採集した生物は生きたまま館に運び入れ、生物の詳しい解説を行った。初めて会った参加者同士で協力し、地引網を引くという、共通の目的を達成する良い経験となり、共に海に親しみ、海を好きになるという効果が期待できる。海を通じた仲間作りの効果が見込める。



参加者が自ら立ち上げる展示水槽で、生物を一般来館者に対して展示する。分かりやすい解説や水槽内のディスプレイなどを自ら考案し、当館職員やスタッフ指導の下、展示を作製した。海洋生物に関する情報を人に伝えることを実際に行い、その経験を通して、生物の特徴や魅力を自ら発信する意欲を育成した。

■縁日水族館

【開催日時】平成28年8月13日（土）～21日（日）
10:30～16:00

【開催場所】1階 講堂

【参加者数】約4,600名

【目標・内容】

- 近くの海で採集できるカニやヤドカリを釣り上げたり、小型の魚類を箱メガネで観察。また海や海洋生物に関する自由工作、海水の塩の実験を行った。夏の自由研究などの題材を提供し、家庭での学習の一助となるように、また家庭内での海の話題を提供すること目標として実施した。
- 解説を行った学生にとって海や海洋生物の面白さを分かり易く伝える工夫や努力をすることは貴重な学びの機会であり、将来、博物館・水族館で仕事をする上で役立つ効果が見込める。



水槽内のカニやヤドカリを釣り上げたり、箱メガネで水中内の魚類を観察したりして、水中での生物の動きを詳しく知ることができる。生物がエサを挟み込む場面を、時間を掛けて観察することで生物の生命を感じる機会を提供した。



容器の中から海藻を来館者が選び、名刺サイズの海藻押し葉カードを作製する。また砂やサンゴ砂、貝殻、流木、海岸の石などをマジックやボンド、ラメのりを使用し、自由工作を実施した。身近な海や海岸で集めることのできる素材を使用し、自分で考えて作業するという体験。夏の自由研究などの題材を提供し、家庭での学習の一助となるように、また、家族間で身近な海の話題を提供し、海を身近に感じ、海的环境を考えることを促した。